

バスケットボール

	予測される危険	安全対策
用具	●バスケットリング等の固定金具が外れることによる事故	●日常的にチェック、修繕。
環境	●転がっているボールを踏んで転倒	●使わないボールがコート内に入らないよう徹底する。
	●タイマーのコードを足にひっかけて転倒	●タイマーは机に置きできる限り壁に寄せる。
	●雨漏り	●バケツ、ぞうきんでの対応。 ※現在そのような状況は見られない。
	●感染症対策	●換気、手洗い、うがいの励行。練習後のボール消毒の徹底
	●熱中症	●適切な休憩、給水時間の確保。 ドアを開けて空気を入れ替える。
	●床が滑り転倒する。	●練習前のワックスがけ。
練習中	●対人練習での接触や転倒	●ルールの理解、遵守を徹底させる。 コーンを置くなど緩衝スペースを取る。体格を考慮してマッチアップの指示を行う。
	●汗等によるスリップ	●モップやぞうきんで拭く。
	●筋肉疲労による怪我（肉離れ、疲労骨折など）	●十分な時間をとり、ストレッチを行う。
	●無理な練習による体調不良、怪我の悪化	●怪我や体調不良を把握し、休ませる。 個人メニューを考えるなど工夫する。
	●疲労の蓄積	●時間をかけてじっくりクールダウンをさせる。

※救急箱を用意し、怪我の際はすぐに応急処置ができるようにしておく。

バレーボール

	予測される危険	安全対策
用具	●シューズの紐がほどけて転倒	●生徒への呼びかけ相互点検。
	●ネットの破損	●日頃の確認。 外部業者によるネットの定期点検。
環境	●床の木の板のささくれ、雨漏り	●普段から床等の状況を確認。ささくれは修繕。雨漏りはバケツやぞうきんで対処。
	●熱中症	●休憩時間を確保、水分補給、アイシングなど。
練習中	●支柱への衝突	●支柱にカバーをつける。声掛け。 複数で行い準備時の立ち位置にも気をつけさせる。
	●他部活の生徒との衝突	●声掛けの徹底。
	●アップ不足による怪我	●時間をかけて丁寧にアップさせる。
	●接触、衝突による怪我	●動きの約束事の徹底（声掛けや守備位置の確認）。 ひじ用、膝用サポーターの着用。
	●突き指	●練習前の指テーピング。
	●ボールを踏むことによる転倒	●練習場周辺に必要なないボールを散乱させない。ボール拾いの生徒を配置する。
	●着地時の怪我	●汗で床が濡れた時のワイピングの徹底。 ●トレーニング等による筋力の強化。
	●疲労の蓄積	●時間をかけてじっくりクールダウンをさせる。 ●適度に休養日を設ける。
	●下肢の怪我	●日常的な下肢トレーニングの実施。 アイシング用品の準備。
	●メガネにボールが当たりフレームが目に刺さる	●コンタクトレンズやスポーツメガネの推奨。

※救急箱を用意し、怪我の際はすぐに応急処置ができるようにしておく。

小金南中安全マニュアル

書道

	予測される危険	安全対策
用具	●カッター等刃物の刃こぼれ	●日々のチェック、手入れを怠らない。
環境	●熱中症	●水分補給、扇風機。 エアコンのある教室での活動。
練習中	●墨が目に入る	●正しい使用法の指導。入ったらすぐに水で洗い流す。
	●カッター、ハサミ等による怪我	●正しい姿勢、正しい使用法の指導。
	●パイプ椅子や机で手を挟む	●危険な場所での活動をさせない。使用前に正しい使い方について確認。

※救急箱を用意し、怪我の際はすぐに応急処置ができるようにしておく。

吹奏楽

	予測される危険	安全対策
用具	<ul style="list-style-type: none"> ●楽器の破損による怪我 ●譜面台の破損による怪我 	<ul style="list-style-type: none"> ●日頃の手入りを怠らない。 ●譜面台の故障に気づく。扱い方を改める。
環境	<ul style="list-style-type: none"> ●活動場所が乱雑になりがち 	<ul style="list-style-type: none"> ●準備室の備品を整理し、楽器置き場を整える。 ●自分のものやパートのものは整理整頓する。
練習中	<ul style="list-style-type: none"> ●誤った楽器の置き方による転倒 	<ul style="list-style-type: none"> ●正しい楽器の置き方の指導。
	<ul style="list-style-type: none"> ●楽器の運搬時における事故 	<ul style="list-style-type: none"> ●運搬時は人員を確保し安全に運ばせる。 特に打楽器は、扱いに慣れていないパーカッション担当の生徒を指示係とする。 可能な限り上級生が運ぶよう指示する。
	<ul style="list-style-type: none"> ●狭い室内での活動による熱中症や感染症 	<ul style="list-style-type: none"> ●室温などに留意し、エアコンの使用、換気も怠らない。

※救急箱を用意し、怪我の際はすぐに応急処置ができるようにしておく。